くば *Cinnamomum*, *Macilus*, *Litsia*, *Lindera* 等ニ命名せるもの多くして、稀に *Magnoliaceae* (木蘭科) の種類に誤りて附する名もあり、「ヲガタマ」は今之を *Michelia* に命じ「タムシバ」は今之を *Magnolia* に充てたる等是なり。蓋し樟科以外の種類にても多少の香氣を含めるもの若くは枳^{ダイダイ}に葉形外觀類似するものなるが如し。此は元より語源を辨へず植物の種類をも知らざるよりの誤謬命名にして紀州にては *Lindera* (クロモジ) を「ヲガタマ」と呼び、伊豫にては *Cinnamomum* (ヤブニクケイ) を「タマシバ」と稱へり、蓋し「タムシバ」といひ、「タマシバ」といふも元同言なりと知るべし。

再ビからたちノ北方分布ノ限界ニ就テ

白 井 光 太 郎

Shirai, M.:—Review on the Northern Limit of Distribution of *Citrus trifoliata* Makino in Japan.

予ハ曾テ本誌第二百五十號ノ紙上ニ我國ニ於ケルからたちノ北方分布ノ限界ニ就テ所見ヲ述ベシ事アリシガ今度再ビ同問題ニ就キ記述スル事トナレリ其故ハ昨年一月中北米合衆國和聖東府農務省植物產業課ワルター、スウイニングル氏ヨリ來書ニ日本產からたちノ北方分布ノ最極端ノ地方數所ニ生スル者ノ種子ヲ得テ柑橘類耐寒雜種作成試驗ノ用ニ供シタケレバ採集ヲ依頼シ度トノ事アリタレバ此種子ヲ得ル爲ニ更ニ東北地方ニ於ケルからたち分布ノ狀況ヲ調査スルノ必要ヲ生シタリ然ルニ幸ニシテ昨年夏期休暇中岩手青森秋田ノ三縣下へ學術實地研究ノ官命ヲ拜セルヲ以テ此等ノ事柄ヲ調査スルノ便ヲ得タレバ茲ニ再ビ所見ヲ陳述スル事トナリシナリ

(一) 探檢日誌

明治四十四年八月九日午後二時府下澁谷停車場出發

同十日午前八時東北線平泉驛下車中尊寺附近巡廻俚人ヨリ此地ニたちばなノ生樹高四五尺根廻五寸ノモノアル事ヲ聽キシモ實物ヲ見ルニ及バズシテ此處ヲ去リ午後二時盛岡市ニ着ス盛岡ニモたちばなアリト聞ク未ダ其眞偽

ヲ詳ニセズ

同十一日盛岡高等農林學校ニ山田農學士ヲ訪ヒ同氏ノ案内ニヨリ市中ヲ巡廻シ盛岡公園。物産陳列所。顯正寺。法華寺等ニ至リからたちノ古木ヲ見ル此日高等農林學校ニ於テ青森縣東津輕郡筒井村筒井尋常高等小學校長種市有隣氏ニ面會シ青森市附近ニモ結實スルからたちノ生樹アルヲ探聞ス

午後四時四十分盛岡市ヲ發シ八戸^{ハチノ}ヲ經テ鮫浦ニ至リ泊ス

同十二日鮫浦ヨリ八戸ニ至リ同所高等女學校教官三輪正氏ヲ煩ハシテ相共ニ町内諸所ヲ巡廻シテからたちノ古木ヲ見ル此日同地朔日町來迎寺境内ニ於テ根廻リ三尺ノ巨木ヲ發見ス

午後二時五十分八戸發午後五時青森ニ着シ帝室林野管理局ニ佐々木和策氏ヲ訪フ

同十三日午前九時青森ヨリ汽車野邊地ニ至リ此處ニテ青森大林區野邊地分担區在勤工藤宥馬氏ニ面會からたちノ有無ヲ問ヒ古木ナキ事ヲ探知シ夫ヨリ汽船ニテ下北郡湊ニ至リ上陸馬車ニテ田名部ニ至リ泊ス此日田名部ニテ帝國林野管理局在勤技手奈良常三郎同技手一瀬留彦氏ニ面會シテからたちノ有無ヲ質セシニ奈良氏ノ說ニ氏ハ七年以前ヨリ此地ニアリテ所在ノ村落ヲ巡廻セシモ未ダからたちヲ目撃セズ且此地ノ俚人ニシテからたちヲ知ル者ナキヨリ考フルニ此地ハからたち生育ノ限界外ニアルモノナルベシトノ事ナリ此日此地ノ別當天神社ノ神木銀杏ノ巨木直徑一間餘ナルモノアルヲ實見ス

同十四日此地古剎圓通寺住職熊谷全應師園藝ノ嗜好アリ且博識ノ聞ヘアレバ早朝同師ヲ訪ヒテ其說ヲ叩キ午前十一時馬車ニテ湊ニ向ヒ同地ヨリ汽船ニテ青森ニ歸リ午後九時弘前市ニ至リ齋吉旅館ニ入ル

同十五日弘前市ヨリ川邊マデ汽車夫ヨリ人力車ニテ黒石町ニ行キ郡立農學校ニ至リ教諭中野新佐久氏ノ案内ヲ請ヒテ町中ヲ徘徊シテからたち。和林檎。りんきノ三樹ヲ探索シ同所徳兵衛町笹館氏ニテりんきノ大樹目通り直徑三尺八寸五分ノ者ヲ實見ス是此邊唯一ノ遺木ナリ此種ハ此地方ニテハ既ニ世人ノ記憶ヨリ忘レラレ農學校ニテモ此木ノ存在スルヲ知ラザリシ位ナリ又同所保食神社境内ニテさいかち(皂莢)ノ巨木目通り九尺三寸ノ

ノ者ヲ檢出ス

即日弘前ニ歸リ市中代官町ニ菊地楯衛氏ヲ訪ヒからたちノ古木ノ所在ヲ問ヒ代官町鳴海氏竝ニ上瓦ケ町成田氏邸内ニアルからたちノ木ヲ見ル成田氏邸内ノ者ハ頗ル巨木ニシテ根廻リ三尺二寸ニ及ベリ

十六日午前七時四十分弘前市發汽車大釋迦驛ニ至リ馬車ニテ五所河原ニ至リ郡立農學校ニ立寄り同校長某氏ノ案内ヲ得テからたちノ生樹ヲ探リ郡役所ニ至リ郡長樋口兵次郎氏ニ面會シからたち生育ノ模様ヲ問訊シ即日弘前ニ歸ル

十七日弘前市中巡廻長勝寺門前杉ノ巨木五人合抱ノ者ヲ見ル午後一時弘前發

十八日午前九時秋田縣大曲驛ニ着シ農事試驗場諸氏ト共ニ驛ノ近傍花館村ニ至リ伊藤善吉氏邸内ニアルからたちノ古木ヲ見ル午後一時三十分同所發午後五時山形縣新庄驛ニ着ス

十九日午前八時三十分新庄驛發馬車鶴岡ニ向ヒ午後六時同地着途中清川ト鶴岡トノ間最上川畔ノ名木仙木杉ノ巨幹數多鐵道敷地ニ中ルモノ伐倒セラレアルヲ見ル惜ム可キノ至ナリ仙人杉ハ希代ノ名杉ニテ海内未ダ曾テ他處ニ見ザル所數百年ノ老杉根上ヨリ繖房花梗狀ニ分岐シ頗ル奇狀ヲ呈スルモノナリ

二十日午後鶴岡發東田川郡大綱村ニ至ル行程六里餘此日田川ノ奥伊勢山ニ大杉アリ根廻リ九間八疊數ノ洞穴アリ中ニ熊野權現ノ小祠ヲ祀リ樹ノ高サ二十五間アリトノ事ヲ聞ク

二十一日大綱村ヨリ湯殿山ヘ往復ス村ヨリ峠マデ半里此間柳ノ清水アリ田母木マデ一里田母木ヨリ獨鈷水マデ一里此處ニ弘法大師ノ手拭杉てふきアリ獨鈷水ヨリ笹小屋ヘ一里笹小屋ヨリ仙人澤迄半里仙人澤ヨリ湯殿山ヘ半里アリ大綱村湯殿山本坊ニ王壇ノ杉アリ三人合抱ノ巨木ニシテ二間程上ヨリ八本分岐ス此日途中ニテ球豬荅ヲ掘ル

二十二日大綱ヨリ鶴岡ニ歸ヘル

二十三日鶴岡發十三里ヲ人力車ニテ新庄ニ出デ同處舊城趾ニ三木樅ノ巨木ヲ見汽車夜行

二十四日午前七時澁谷停車場着

○再びからたちノ北方分布ノ限界ニ就テ 白井

(二)視察シタルからたちノ所在竝大小等

巡廻中自親自擊セシモノ竝ニ知友ノ探檢ニヨリ發見セラレシからたちノ所在大小等ヲ表記スレバ左ノ如シ

所在地	所有者	根元周圍	高さ	サ	果實
盛岡市	顯正寺	一尺一寸八分	一丈餘		有
同 物産館		九寸二分	八尺餘		有
同 同		八寸六分	八尺餘		有
同 同		一尺四寸	八尺餘		有
同 同		二尺七寸三分	二丈餘		有
八戸町朔日町	來迎寺	三尺	二丈餘		有
同 同	同	八寸七分	二丈餘		有
同 八幡町	橋本和吉	九寸	二丈餘		有
同 同	同	九寸	二丈餘		有
同 中番町	小杉氏	一尺八寸五分	生垣		有
同 類家	西村氏	三尺二分	四間半位		不明
同 柏崎新町	南部氏	二尺一寸三分	二間餘		不明
同 常海 ^{ジャウカイ} 町	安藤氏	二尺一寸三分	二間餘		不明
同 應匠小路	野村氏	二尺〇一分	二間餘		不明
同 長横 ^{ヨコ} 町	北村氏	一尺九寸	二間餘		不明
同 常海町	船越氏	一尺八寸五分	二間餘		不明
同 徒士町	中野醫院	一尺七寸二分	二間餘		不明
同 館村長根	高橋氏別莊	一尺三寸七分	二間餘		不明
青森附近幸畑村	小泉重吉	二尺餘	二間餘		不明
同 同	小泉久兵衛	二尺餘	二間餘		不明

結實百箇以上アリ

結實百箇以上アリ

以上八戸三輪正氏實測

不明

年齡七十八年位

年齡六十年位

不明

不明

不明

以上予ガ實測

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

年々結實アリシモ五六年前伐木ス

(二) 結 論

同 筒井村	德 差 勳	二 尺	許	不	明	年齡五十年多數ノ結實アリ
同 筒井村	步兵第五聯隊兵營ノ生垣	不	明	不	明	明治三十三年頃植之
同 駒込村	鹿内小左衛門	三尺七寸	三	間	許	青森附近最大ノ木ニシテ結實約三百箇アリ
同 駒込村	千葉與三郎	一尺六寸	二	間	半	結實約二百箇アリ
同 駒込村	千葉兼造	一尺七寸五分	二	間	半	結實總數約百箇アリ
同 駒込村	近藤八重次郎	根元ヨリ五本ニ分レ各太サ九寸	三	間	許	結實約二百箇アリ
同 戸崎村	鹿内三衛	一尺三寸	二	間	餘	結實六七十個アリ
同 青森市内ニハからたちヲ存セズ						以上木梨延太郎氏實測
同 津輕郡黒石	兼田一郎氏	一尺八寸五分	二	間	位	有
弘前市代官町	鳴海氏	一尺二寸	二	間	位	有
同 瓦ヶ町	成田氏	三尺二寸	三	間	位	有
北津輕郡五所河原	古市旅館	九寸	二	尺五寸		此木ハ以前ハ年々雪障チナセシモ近年之ヲ放置スル爲上部枯死切詰メタリ
同	秋本久吉地内	七寸五分	一	丈一尺		結實十餘箇アリ此木ハ年々冬雪被チナシ保護ストイフ
秋田縣大曲驛花館	伊藤善吉	二尺五分	二	間	位	

今回探檢ノ結果ヲ總合スルニ青森縣ノ北端下北郡田名部ニハからたちノ生樹ヲ見ズ同所圓通寺ノ住僧ノ說ニからたちハ苗木ヲ取寄セ三回許試植セシモ寒氣ニ堪ヘズ年年短縮シ大抵三年目ニ全ク枯死セリ又密柑類ハ盆栽ナレバ保テドモ地ニ下セバ地上ノ部枯死シ砧芽ヲ發シからたちニ變シ是モ二三年目ニ根マデ枯死ス云云思フニ支那ニテ橘淮ヲ越ヘテ枳トナルトイフハ此ノ如キ事實ヲ謂ヒタルモノニ外ナラザルベシ又青森市及野邊地ニハからたちノ老樹ナシ北海邊ニ近キ爲カ青森附近海邊ヨリ一里餘ヲ内地ニ入リシ筒井村、幸畑村、濱村、戸山村、戸崎村ニハ數株ノ老樹アリ能ク結實スル事ハ青森師範學校敎官木梨延次郎氏竝筒井尋常高等小學校長種市有隣氏ノ調査ニヨリテ明ナリ

左ニ木梨氏通信ノ全文ヲ引證シ茲ニ謹ンデ同氏ノ厚意ヲ鳴謝ス

青森市附近ノからたち

(一)幸畑村小泉重吉方

根周リ一尺三寸七分アリ四尺ノ高サニ於テ太サ一尺總高二間半樹齡三十年ニシテ果實ヲ着クルコト總數約百餘アリト認メタリ各果實ノ大サ三寸四分乃至三寸八分(九月三日ノ調査)此樹ノ起源ニ付テハ二説アリ一ハ駒込村鹿内小左衛門方ヨリ移シタル苗木ノ成木セシ者トイヒ他ハ蜜柑ノ種子ヲ播キシ結果此からたちニ化セシナリト

(二)幸畑村小泉久兵衛方

莖ノ大サ二尺餘アリ年々多少ノ結實アリシモ五六年前之ヲ伐倒シ今ハ根株ヲモ存在セズ

(三)筒井村德差勳方

莖ノ太サ二尺許樹齡約五十年毎年多數ノ結實アリ果實ハ普通ノ蜜柑ノ大ニ成長シ美麗ナル橙黃色ニ着色セシモ三年前之ヲ伐倒シ今ハ根株モ存在セズ其起原ニツキテハ京詣リノ土産ニ蜜柑ヲ持歸リ其種子ヲ播キシニ因ルトノ説アリ

(四)筒井村歩兵第五聯隊兵營ノ生垣

明治三十二年ノ頃苗木ヲ移植シタルモノニシテ本數一千以上モ有ベキモ元來生垣ノ事故發育宜シカラズ又枯死セルモノモ多キ様ニ見ユ毎年六七月頃花ヲ開クモ果實ヲ結ブハ極メテ稀ナリ

(五)駒込村鹿内小左衛門方

根周リ三尺七寸アリ高サ十尺ノ所ニテ二本ニ分枝ス其二本ハ二尺五寸他ハ二尺六寸五分總高約三間許アリテ青森市附近

ニテ見ル最大ノからたちナリ果實ヲ着クルコト總數約三百各果實ノ大サ四寸乃至四寸七分ニ及ブ(九月十七日ノ調査)
現今既ニ木心腐朽シ樹齡八九十年ナルベシトイフ今日五六十歳ノ人ノ話ニ各自十歳許リノ小供ノ際既ニ此樹ハ果實
ヲ多ク結ブ大木ナリシトゾ此樹ノ起原ニツキテハ同家ノ老八京詣リヲナシ歸路蜜柑ヲ持歸リ其實ヲ播キシトイヒ或
ハ上方ヨリ蜜柑ノ苗木ヲ持來リ移植セシモノナリトモイフ

同村ニ尙ホ三株アリ何レモ此樹ノ實生ナル由次ノ如シ

(六)駒込村千葉與三郎方

根周リ一尺六寸目通リ一尺一寸約高二間半果實ヲ着クルコト約二百ニ及ブ

(七)駒込村千葉兼造方

根周リ一尺七寸五分地上約二尺ノ所ニテ三本ニ分枝ス各太サ一尺許リニシテ總高約二間半果實總數約百

(八)駒込村近藤八重次郎方

根本ヨリ五本ニ分ル各太サ九寸總高約三間果實ヲ着クルコト約二百ト認メタリ

(九)戸崎村鹿内三衛方

根周リ一尺三寸ニシテ地上約二尺ノ所ニテ二本ニ分枝シ更ニ各二分セリ總高約二間アリ果實ヲ着クルコト六七十个
ニシテ樹齡十四五年ナリトイフ其起原ハ同村某方ノからたちノ果實ヲ得テ播種セシニ因ル此某方ニテハ往年京詣リ
ノ歸路持來レル蜜柑ノ種ヲ播キシモノ大木トナリシ由ナルモ今ハ既ニ伐倒シ根株モ存セズ

(一〇)戸山村奥崎久太郎方

戸崎村鹿内三衛方ノト其起原ヲ同フス播種後五六年ニシテ根周リ約一尺高サ一間半ニ成長シ一昨四十二年始メテ結
實シ昨年ハ勿論本年モ亦結果セシモ去ル八月初メ之ヲ伐倒シタリ九月十七日調査ノ際ニハ根株ヨリ二三本ノ嫩莖ヲ
萌出シ高サ各二尺餘ニ伸長セリ試ミニ切株ニツキ其年輪ヲ數ヘントセシモ木理不分明ニシテ容易ニ識別シ難キ故遂
ニ中止セシハ残念ナリキ

(一) 濱館村工藤喜右衛門方

根本ヨリ四本ニ分枝ス總高二間許リ果實ハ僅ニ二三十個ヲ着クルノミ駒込村鹿内小左衛門方からたちノ種子ヲ播キテ成木セルモノニシテ樹齡約四十年ヲ算スベク三十年前ヨリ能ク結實セリトゾ

(二) 高田村奥崎義郎方

根周リ一尺四寸五分地上尺餘ノ所ニテ二本ニ分枝ス總高二間アリ樹齡ハ三十餘年ナルベク結實シ始メテヨリ既ニ二十餘年ヲ經過セリ果實總數二百許リ各果實ノ大サ四寸乃至四寸八分(九月廿四日調査)
此樹ハだいたいノ種ヲ蒔キテ成木セシモノナリトハ同家老人ノ實話ナリ

(三) 高田村淺木由造方

同村奥崎義郎方ノニ比スレバ樹ハ小サク結實數ハ遙ニ少カリシ而シテ十年已前ニ之ヲ伐倒シ今ハ根株モ存セズ以上ノ狀況ヨリ推シテ當地方ニテハからたちハ良好ニ生育シ結實モ相當ニ豊富ナルモノトイフベシ元來當地方ニテハ四五十年前ニハ蜜柑ヲ見ルコト無カリキ蜜柑ノ來リ始メタルハ二十五六年前ニシテ其前マデ來リシモノハ主トシテだいたいニシテ時ニくねんば來ルコトアリ今日不惑ノ年ニ達セル人々ハ皆幼時ノ事ヲ語リテ曰ク若シだいたい一個ヲ得ルコトアラバ恰モ珠玉ヲ手ニシタルガ如ク喜ビ且ツ珍重セルモノニテ先ヅ暫ク之ヲ玩弄ニ供シ程經テ其果肉ヲ多クノ人々ニ分食セシモノナリトゾ從ツテからたちノ木モ稀品トシテ之ヲ大切ニシ甚シキハ其周圍ニ柵ヲ結ビ濫リニ人ノ其附近ニ立寄ルヲ禁ジタルモノスラ之アリ固ヨリ當地ノからたちノ實ハ苦味ト澁味ト多クシテ倒底食用ニ供スベカラズサレド蜜柑ノ木ト稱シテ之ヲ栽培シ其果實ハ小兒ノ玩弄物トナルニ過ギズ其他ノ點ニ關シテハ何等利用上考究セラレタルコトハナキナリ然リ其生育スル模様ハ只雪中嫩枝ノ先端ハ凍傷ヲ受ケテ二三寸ノ枯死スルモノアル故播種後二三年間ハ冬期多少ノ保護ヲ與フルアレバ則チ足ル其以後ハ何等ノ手數ヲ要セザル者ナリ』
以上太栗氏ノ書
北津輕郡五所河原邊ニテハ生育困難ナレドモ冬期雪障ヲナセバ間餘ノ高サニ達シ能ク結實スル者アルハ予ノ目撃セル所ナリ然レドモ霜雪ノ備ヲ爲サザルモノハ悉ク枯死ス是亦同所郡役所ノ土手ニ植ヘタル苗木ノ三年目ノ今日殆ン

ド消滅セントシテ僅ニ存スルモノアルニテ明ナリ又此地ニテハ生木セルモノモ之ヲ保護セザレバ雪ノ上ニ出ヅル部分枯死ニ至ルハ古市旅館庭中ノ老木ニヨリ之ヲ證スルヲ得ベキガ如シサレバからたち生育ノ極北界ハ此邊ナリトイフヲ得ベシト思ハル弘前ニハ根回り周圍三尺二寸ノ巨木アレバからたちノ生育ニ適スルヤ疑ナシ此等諸地ニ於ケル降霜ノ遲速最低溫度降雪ノ量等氣象上ノ事ニ就テハ多少調査セシモ頗ル不充分ニシテ今日之ヲ報告スルヲ得ザルハ遺憾ナリ此等ハ他日精探ノ上更ニ報道スル所アルベシ終リニ臨ミ謹ンデ弘前市成田敬爾氏青森市木梨氏竝ニ種市氏盛岡市山田玄太郎氏ニ種々ノ援助ト多量ノ種子トヲ贈與セラレタル事ヲ鳴謝シ八戸町三輪正氏其他巡回中種々ノ便宜ヲ與ヘラレタル諸氏ニ對シ謹ンデ其厚意ヲ感謝ス

◎新 著

○デュン氏「獼猴桃屬ノ研究」

Dunn, S. F.,—A Revision of the genus *Actinidia*
LINDL. in Jour. Linn. Soc. XXXIX, p. p. 394—419,
1911.

著者ハ先ヅ本屬ノ性狀ヲ定メ一般形態、生態及ビ有用ヲ短述シ次ニ本屬設立ノ歴史、分類學上ノ位置ニ就キ古來他學者及ビ自己ノ意見、本屬ノ現世產植物ニ就キ系統發展ノ狀及ビ地理分布ヲ記シ尙各種ノ精細ナル各論ニ移リ最後ニ一般檢索表及ビ分布圖一葉ヲ附シタリ、
一千八百三十六年リンドレー氏(J. Lindley)ハネポール產本屬ノ一植物ニ依リ *Actinidia*, LINDL. ヲ設立シ *Dilleni-*

aceae ノ中ニ入レタルニ始ル、而シテ本屬ノ異名トナルベキモノニアリ一ハ *Trochostigma*, S. et Z. ニシテシーボールド、ツツカリニ兩氏ガ一千八百四十三年日本產本屬植物ニツキ設ケシモノニシテ當時之ヲ *Ternstroemiaceae* ノ中ニ入レタリ。他ハレーゲル氏ノ *Kolomikta*, Rel. ニシテ滿洲產ノ本屬植物ニヨリ設立シ之ヲ *Tiliaceae* ノ中ニ入レタルモノナリ、

分類學上ノ位置ハ各學者ノ間ニ意見ヲ異ニシ或ハ *Dilleniaceae* ニ入レ又ハ *Ternstroemiaceae* ノモノトナス一千八百三十六年リンドレー氏ハ果實ヲ見ザリシガ多數ノ心皮、離生花柱、内向葯ヲ有スルノ點ヲ以テ *Dilleniaceae* ニ入レタリ

一千八百四十三年シーボルト、ツツカリニ兩氏ハ *Ternstroemiaceae* 中ノ *Surauja*, Willd. 屬ト近親ノ間ニアル